

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	1人1台のタブレット端末やICT機器を積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら、全ての子供たちの可能性を引き出す授業作りを目指す。また、各教科で振り返りの活動を充実させ、児童に自己の学習を振り返り次につなげていこうとする態度や力を育む。	中間評価	様々な教科において、授業のねらいに即したタブレット端末の活用をすすめている。見通しと振り返りをセットで行うことや、振り返りの効果的なさせ方についても、校内研究を中心にさらに深めていく。	最終評価	タブレット端末を活用して個別最適な学びに向けての工夫を行った。振り返りの時間を確保し振り返りが習慣化されたことで、児童が自分の考えをもてるようになり、他者の考えに気付き、自分の考えと比較して考えの深まりや広がりを実感できるようになった。
		学習のねらいや活動の流れ、振り返りの視点を示した掲示物を工夫し、児童が学習に見通しを持ち、主体的に学習に取り組めるようにする。また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、落ち着いた学習に取り組める環境づくりをする。		児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう板書や掲示物を工夫した。今後はさらに、ミニホワイトボードやタブレット端末を活用し、児童の思考や学び合いを可視化する工夫も行う。		板書計画や掲示物の工夫の他、書くことが苦手な児童にも取り組みやすいようノート以外にも短冊文用紙や付箋なども用意し自分が書ける量を意識できるようにしたり、児童の思考が可視化されるよう引き続きボードやタブレット端末を活用したりしたことにより、児童の考えの深まりや広がりにつなげることができた。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、助詞、促音、拗音などの学習が終了した。漢字と片仮名に取り組んでいる。 読書をするのが好きな児童が多く、文字の多い本も読めるようになった。 物語と説明文に取り組み、文章から状況や答えを読み取る学習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名、漢字だけでなく助詞や拗音、促音の定着が不十分な児童がいる。読むことはできるが、書くとなると正確に書けない児童が多い。学習の中で書きたいと思う内容は見つかるものの、それを正確に文章にすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や助詞、促音などの既習事項を宿題などで繰り返し取り組み、習熟を目指す。 日記の宿題で文章を書く練習や、自分の経験を分かりやすく伝える練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の習熟は8割の児童が身に付いた。しかし、一部の児童は促音、拗音、助詞の定着が十分ではない。また、学年全体で見ると漢字や片仮名の定着が不十分である。 学年全体として文章を正確に読む力が身に付いた。宿題や授業中での繰り返しの音読の効果があつた。 説明文の学習を通して、文章の中から必要な答えを正確に抜き出す力が付いてきている。物語文でも文章の中に書かれている事柄をもとに心情を理解することができるようになった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 数の概念の学習は10のまとまりをもとに、40までの数について学習した。 答えが繰り上がり、繰り下がりの無い20までの足し算引き算も学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> 5以上の数の概念について理解が不十分である。 答えが10以下の計算をする際に頭の中で計算できず、指を使う児童が多い。 10が4つで14と答えるなど、数量の理解が未熟である。 	<ul style="list-style-type: none"> 隙間時間を活用して答えが10以下の計算練習に繰り返し取り組み、定着を図る。 計算の場面では引き続き具体物を活用して数量の概念を確認しながら、次第に数字だけでも数量を理解できるようにスモールステップで授業を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習を繰り返したことで、一桁の計算はスムーズに理解できるようになった。同時に数量の理解も進んだ。 文章問題の場면을正確に捉えて立式することが難しい。ブロックや図などがあっても自力で式につなげることができない児童もおり、今後習熟が必要である。 生活経験の差から時計の読みの力に個人差が大きかった。問題練習を行うとともに、生活の中で時計を読む習慣付けが必要である。 	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読めない児童や、文章をすらすら読めていても内容の理解には至らない児童が多く見られる。 拗音、促音の混じった言葉や片仮名を書くことが苦手な児童が多く見られる。また、マス目の使用ルールがまだ十分に定着しておらず、拗音・促音や句読点の位置の間違いが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読む力および文章の内容を理解する力を伸ばす。 拗音、促音の混じった言葉や片仮名を、マスの使用ルールに従って書くことや、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方について指導する必要がある。 習った漢字を使って文章を書く指導をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語に限らず、他教科でも授業中に音読する場を増やす。タブレット端末の学習ソフトを活用し、継続して読み方や使い方の練習、家庭学習での復習を行う。 ノートや作文用紙を活用し、文章の書き出し方や、拗音、促音を正しく書く指導をする。日記や日々の振り返りなどで、「書く」時間の確保をする。 短文づくりで、文章での活用方法を学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読の宿題を毎日課したことで、国語の教科書の物語文などは日に日に読むのが上達した。タブレット端末と併用して漢字学習ノートを活用した。 ノートや作文用紙の使い方についても折に触れて指導した。児童によって差があるものの、段落や改行のルールや、正しい仮名遣いは定着しつつある。 算数や道徳でも振り返りを書かせたことで、自分の考えを短い文章で表現することができるようになってきた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり、繰り下がりのある計算、何十±何十、等の基礎的な計算の技能はおおむね高いが、文章題に関しては、立式や答え方等がまだ十分に身に付いていない。 図を描いて考えることが苦手な児童が目立つ。 見直しが必要であることに気付き、意識して見直しをするようになってきたが、まだ間違いをそのままにしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題に使える数についての理解と正しい式を立てる指導をする必要がある。また、答えの単位の方について指導する必要がある。 授業課題やテストの見直しについて指導し、間違いをなくすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文に使われている数を意識させ、「わかっていること」「聞かれていること」をおさえて立式させる。 タブレット端末内の学習ソフトを活用し、短時間学習の時間にも文章問題を解く練習をする。 見直しのポイントは何かを考えさせ、自分自身で意識できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式のポイントを指導したことで、文章題から式を導く力が、たし算ひき算とも身に付いてきた。かけ算についても、かけられる数とかける数の意味合いを確認しながら指導をしている。 見直しをしたつもりになっている児童のケアレスミスがなかなか減らないため、テストを返却する時は、誤答の多かった問題を特に丁寧に解説し、今後の類題への対策としている。 タブレット端末のデジタル教科書の具体物を動かせる機能を活用し、視覚的に理解を深められるように指導している。 	

3	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 80.8%だった。目標値を 3.9%上回っているものの、新宿区の正答率を 0.1%下回っている。内容別に見ると、「話を聞き取る」「言葉の学習」などで正答率が区の正答率を上回っているが、「文章を書く」が区の正答率も目標値も下回っている。「書くこと」の問題に関して無解答が多く、「指定された長さで書く」「自分の思いや考えが明確になるように書く」での誤答が多く見られた。</p> <p>学 漢字の読み書きや言語については、毎日の家庭学習でも取り組んでおり、身に付いてきている。授業では、説明文や感想文、紹介文などを書くことに取り組んできたが、文を書く力がまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題の細部まで気を配って読み取ることが難しい児童が見られる。問題文をじっくりと読み、問題の意図や指示をしっかりと把握する習慣をつける必要がある。 片仮名、助詞の適切な使用、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方の理解が不十分な児童が見られるため、指導する必要がある。 「書くこと」においては、指定された長さで文章を書くことや自分の思いや考えを文章に表す指導を行い、書く力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の学習ソフトを活用し、片仮名、助詞等、言葉の学習の復習を行う。 授業での作文学習を通して、片仮名、助詞の適切な使用、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方、片仮名、助詞を適切に使えるよう指導を継続して行っていく。 作文する前に、課題に対する話し合いを行ったり、自身の体験を想起させたり、例文や型を示したりすることで、文章に書く内容の材料となる事柄を準備させるようにする。また、文章を書いた後は、友達同士で見直しをさせたり、推敲させたりすることで、書く力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を用いることで言葉や文章に触れる機会は増えたが、依然として問題や文章を思い込みながら読み取っていることから、内容理解が不十分であったり、誤答をしたりしている児童が見られる。 文章を書く習慣をつけることで、適切な言葉の使い方や表現の仕方、マス目の使い方が身に付いてきた。しかし、文章の構成を意識しないまま書き出しているため、はじめ、中、終わりを意識しながら書く練習を繰り返し行う。 作文する前に話し合う活動やメモをすることで、自分が文章にする内容を整理することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末や辞書を活用することで、言葉や文章に触れる機会を多くもつことができた。語彙力が増えたことで授業の振り返りに自分の思いを上手に表現できる児童が多くなった。しかし、段落や文章構成を意識した文章を書くことは、これからの課題である。 意図的に考えを交流する機会を多くもったので、自力で解決できなくても、友達の考えを聞いて理解できる児童が増えた。さらに理解を深めるためには、友達の考えをメモしたり、考えに対して質問や感想を返したりするようにしていく必要がある。
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 70.5%だった。目標値を 0.4%、区の正答率を 3.0%下回っている。内容別に見ると、「たし算」「ひき算」「かけ算」で、目標値、区の正答率をともに下回っており、文章問題における誤答が多く見られた。</p> <p>学 家庭学習での練習問題への取り組みや授業での計算練習、計算方法の説明をするなどを通して基礎・基本は身に付いてきている。文章題では計算場面を確認し、児童自身が図に表して説明するなどして取り組んできたが、文に合った場面を想起し、適切に立式し計算する力がまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題の細部まで気を配って読み取ることが難しい児童が見られる。問題文をじっくりと読み、問題の意図や指示をしっかりと把握する習慣をつけるよう指導する必要がある。 基礎・基本は身に付いてきているが、定着に差が見られるため、必要に応じて個別の支援も行う。 文章題では、文に合った場面を想起し適切に立式し計算する力がまだ不十分であるため、引き続き指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末内の学習ソフトと紙のドリルを併用させながら、基礎基本の学習内容をしっかりと定着させていく。タブレット端末の問題では、理解度や定着度により、自分にあった課題を選択できるようにさせる。 問題文に使われている言葉や数を意識させ、「わかっていること」「聞かれていること」をおさえて立式させる。 ノートを用いて、自分の考え方を表現することを習慣化し数学的な思考力がきちんと身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した復習や紙のドリルの併用・選択をすることで、児童が自分に合った方法で既習内容の定着を図ることができた。 問題文をよく読まずに、数や数字を見て立式している児童が多く見られる。問題文の言葉を整理し、言い換えることで立式に必要な言葉や数を意識させている。また、言葉の式に当てはまる数を文章の中から見つけ出すことで、何を求めるために、どのような計算をしているのか理解することができている。 ノートの使い方を指導することにより、自分の考え方を図や文章で表現することが習慣化してきた。友達に伝わりやすくするための表現方法を工夫しようとしている姿も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末と紙のドリルやワークシートを併用して活用したことで、児童が自分に合った方法で問題を選択して復習することができた。しかし、基本的な計算は身に付いているものの、考え方や計算方法を説明することには課題が残る。 問題文から求める数を捉え、言葉の式に表したり言い換えたりすることで正しく立式できるようになった。考え方は理解してきているため、これらを習慣化していくことが必要である。 ノートを用いて考えを表現し友達同士で交流することで、文章や図、絵など各々の考え方で理解することができた。
4	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果を分析すると、文章を書く問題の正答率が 70%を超え、書く力が定着したことがわかる。毎日の振り返りや学習感想、原稿用紙を用いての意見文の学習に継続して取り組んだ成果と思われる。</p> <p>学 国語辞典や漢字辞典の活用により、語彙が増え、読解力も高まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に学力が向上したが、学力差が大きくなった。学年相応の学習についていけない児童への支援を組織的、計画的に行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 力が付きつつある「書く」ことを、「読むこと」とセットにして「よく読まない」と書けない課題設定をする。「対比して読む」、「関連付けて読む」など視点を設けて文章を読むことに取り組ませる。 学年相応の漢字が難しい児童に対しては、タブレットを活用して個に応じた内容のドリル学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文用紙2枚程度にはまとまった文章が書けるようになってきている。また、読書の幅が広がった。しかし、要旨をまとめるなど、中心を捉え、意味が重なる文を取捨選択するような学習の習熟が必要である。 漢字の繰り返し学習が定着しつつある。これまで覚えて来られなかった前までの漢字学習を行う機会を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に感想文、調べて書くもの、要旨文などさまざまなテーマでの内容で、さらに決められた字数に合わせた文章づくりができるようになった。読書量の差は課題として残る。 学年相当の漢字は大体書けるが、熟語組み立てや主語述語の整合などに未だ困難が見られる。
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果を分析すると、基礎的な計算はできているが、計算の仕方や考え方を説明する力がまだ十分身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方や考え方について繰り返し指導し、思考力を伸ばしていくようにする。 学年相応の学習についていけない児童への支援を組織的、計画的に行い、基礎的基本的な能力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットと紙のドリルを併用させながら、基礎・基本の学習内容をしっかりと定着させていく。 ノートを用いて、自分の考え方を表現することを習慣化し数学的な思考力がきちんと身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方を書く学習に慣れてきて、思考の過程が分かるようにノートを工夫して書けるようになってきている。 文章題に苦手意識がある。国語力の向上と関連させ、文章題中心の演習を繰り返すことで文意を読み取る力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の習得事項を用いて解決の見通しを立てたりして、自分の考えを説明することに慣れてきた。 問題を図に表してから立式をしたり、簡単な数値に置き換えたりして解決の糸口を自分なりに探るようになってきた。
5	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 71.9%だった。これは、全国を 2.6%上回っているが、新宿区を 0.3%下回っている。内容別に見ると、8つのうち7つの正答率が全国を上回り、観点別では「知識・技能」と「思考・判断・表現」の正答率が全国を上回っている。</p> <p>学 班での意見交換が上手にできるようになり、物語や説明文の読み取りは、理解が深められた。漢字の読み書きや言語については、毎日の家庭学習でも意欲的に取り組んでおり、身に付いてきている。毎週、日記に取り組んだり、学習の振り返りで学んだことなどを書いたりしていたが、文を書く力がまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」について、指定された長さで文章を書くことや、段落を意識して書くことを指導する必要がある。また、自分の思いを文章で表すための指導をする必要がある。 班での意見交換では、積極的に発言する児童の考えに流されやすく、発言できない児童の考えが反映されにくいいため、発言の手助けとなるような指導を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことについては、説明文の型を参考にして文章を書かせたり、フォローアップワークシートを活用したりし、書く機会を多く設定する。また文章を書いた後、見直しをしたり、友達同士で推敲したりする。 発言することに課題を感じている児童がいるので、発言の手助けとなるような資料をタブレットで作ったり、考えが視覚的に友達に分かるようなアプリを使ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の文型を参考に、調べたことを書く練習をしたり、互いの文章を読み合ったりしながら書く練習を重ねている。内容に合わせ、段落に分けて書くことについては引き続き指導が必要である。 自分の思いや考えをノートに書き、考えを整理するようにしている。書くことで発言の趣旨が明確になり、友達との意見交換も活発になってきた。また、全体での発言には消極的でも、小グループでの話し合いでは活発に発言する児童が増えてきている。視覚的に互いの考えを伝え合うためのタブレット端末の活用については、児童の実態に合わせて今後取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 文型を参考に書く練習を重ねてきたことにより、内容に合わせ段落に分けて文章を書ける児童が増えた。また、wordやPowerPointを活用してまとめる学習においても生かされていた。友達同士で読み合う活動時間も充実したものとなった。 自分の考えをメモし、整理してから交流する活動に多く取り組んだことで、積極的に交流活動に参加し考えを深めることができた。 小グループでの話し合い内容をタブレット端末を通して全体で共有しながら話したり、端末を使って発表する機会を増やしたりするなど、活用の幅が広がった。

	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 73.8%と、全国を 6.5%上回り、新宿区を 1.2%上回っている。内容別にみると、8つのうち正答率が全国、新宿区を下回っているのは、「億と兆・がい数の表し方」、「簡単な場合についての割合」であった。観点別では、「知識・技能」が新宿区を下回っていたが、その他は全国、新宿区ともに上回っている。</p> <p>学 計算の手順や、基本的なデータの読み取りなどの基礎・基本は身に付いてきている。しかし、それを応用して発展的な問題を解いていく力はまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本は身に付いている児童が多いので、さらに発展的な問題に取り組むための思考力を伸ばしていくようにする。 学級内での理解度に差があり、同一の課題に取り組むことが難しい児童には、必要に応じて個別の支援も行う。 友達の考えを受容し、よさを見つけ、それを活用しようとする力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントやタブレットのデジタルドリルを活用し、児童が自分に合った課題を選択できるようにする。児童の実態によっては下の学年の学習内容にも取り組めるようにし、基礎的基本的な能力の定着を図る。 振り返りの時間を確保し、友達の考えの良さや本時で学んだことを積み重ねていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算スキルやタブレット端末のデジタルドリルを活用して復習できるようにしている。 習熟度別授業では、十分に習熟していない児童を特に個別で指導しやすいようクラス編成している。授業中には理解度に応じたプリントやタブレット端末を用いてより習熟できるようにしている。振り返りを書く時間の確保には課題が残るので改善していく。振り返りを次時に生かすことで学びの継続性を意識させる指導が引き続き必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業では、習熟しているクラスでは適用問題のプリントやタブレット端末を用いて、さらに理解が深まるよう指導した。 図や数値線などを使って自分の考えを分かりやすく表現する力が伸びた。 どのクラスでも友達の考えを受容し、それを活用して考えが深められるようグループでの学習を多く取り入れた。 振り返りの時間を確保できないことがあった。
6	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果を見ると、本校の正答率は 75.7%と、新宿区の平均正答率を 2.8%上回っている。領域別正答率で区の平均を下回っているのは「我が国の言語文化に関する事項」のみで 5.3%下回った。</p> <p>学 話すことや聞くことの定着に個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古文や漢文、近代以降の文語調の文章についての関心を高める指導が必要である。 話すこと、聞くことに高い意欲をもつ児童とそうでない児童の差が大きいため、タブレット端末の活用も工夫しながら指導していく。 小グループ内では話せるが大人数の前で話すことに苦手意識のある児童がいるため、話す力を伸ばしていく必要がある。 話の内容を理解したり聞いたり、自分の考えをもちながら聞く指導をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 親しみやすい古文や漢文などを国語科や社会科などで紹介し児童の興味関心を高めていく。 国語科の話すことや聞くことの学習に重点を置き、単元での指導時間を増やし指導する。 自分のスピーチ等をタブレット端末で録画し、見直して修正したり、友達の録画されたものを参考にしたりしながら、よりよいものをつくり上げるようにしていく。 国語科だけでなく他教科や特別活動の時間なども活用し、全ての教育活動を通して「聞く」「話す」について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で、落合にゆかりのある太田道灌に関する和歌を詠んだことをきっかけに、古文や和歌に興味をもつことができた。 話すことや聞くことの学習に引き続き重点を置き指導する。 物語の中のお気に入りの段落を録音して聞き返した。自分の朗読を客観的に聞くことができるため、どのように読むと相手に伝わりやすいか、児童が自発的に考える意識付けができた。 特に「聞く」ことについて課題が残る。人の話を最後まで黙って聞く指導の徹底が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間での調べ学習や社会の歴史など、様々な教科で文化について学習した。仮名の成り立ちや古文、和歌に興味をもつことができた。 小グループでの話し合いや多くの児童が意識的に行うようになった。スピーチや発表などクラスの友達の前で話したり、全校朝会のあいさつをしたりする経験から、話すことに抵抗が少なくなった。 聞くことに関しては課題が残る。話し手の相互評価や自分の聴き方の個人評価をすることで、最後まで粘り強く聴く指導をしている。
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 75.4%と、新宿区の平均正答率を 4.2%上回っている。また、どの領域でも区の平均正答率を上回っている。</p> <p>学 ワークテストやプリントでは、問題を読み間違えたり、単位を付け忘れてたりすることが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学力は身に付いている児童が多いので、さらに発展的な問題を解決する力を伸ばしていく。 学力の定着度に個人差が大きいため、必要に応じて個別の支援も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のデジタルドリルを活用して既習の学習を復習し、定着を図る。 自分の考えと友達の考えを比較してさらに考える時間を設け、苦手意識をもつ児童も意欲的に学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中や放課後の宿題、夏休みの課題としてタブレット端末のデジタルドリルを活用した。基礎の定着のため引き続き活用していく。 友達と考えを交流することで、特に苦手意識をもつ児童が意欲的に学習に取り組むようになっている。前時の復習や既習事項を想起させることで、根拠をもって自分の考えをもつことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や宿題など復習の時間を確保し、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図った。発展的な問題に取り組む児童はタブレット端末のデジタルドリルを活用した。 振り返りを書き、児童自身が得意なことや苦手なことを把握することで次の学びに生かしている。
	音楽	<p>学 表現および鑑賞の活動にすすんで取り組んでいる。互いのよさや成長を認め合い、友達と共に学習することを楽しんでいる児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動では、間違えることを恐れたり、自分の表現への肯定感がやや低い面が見られたりする。技能面は個人差もあるため、必要に応じて個別の支援も行う。自分の表現に自信をもち、音楽を通して自分を表現できるよう支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く教材を選択したり編曲したりして児童の表現活動への意欲を高めるとともに、表現に必要な基礎的な技能を身に付けさせるために、全体指導はもとより、児童の実態に応じて個別に支援を行う。 自分のよさに気づき自分の表現に自信をもてるよう、児童が相互によさを言語化して伝える活動を設定したり、タブレット端末を活用して互いの表現を見合う時間を設定したりする。 自らの学びを振り返って次の学習へつなげたりするよう振り返りの時間を設定したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって魅力のある教材や活動を設定し、音楽の学習への意欲を高めるようにした。 器楽や音楽づくりの学習において、友達と見合い、互いの表現のよさを伝え合ったり教え合ったり活動を取り入れるとともに、タブレット端末を活用してつくったリズムを互いに紹介し合うなど、児童が互いのよさに気付いたり自分の表現に自信をもてるようにしたりした。 各題材の中間やまとめの段階で振り返りの時間を確保した。児童が自らの学びを振り返り、次の学習につなげようとする内容の記述が昨年度より多く見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある教材や活動の設定および児童が自分の表現に自信をもてるようにするための支援を次年度も引き続き行う。 タブレット端末に課題の音源を送り、児童が授業以外の時間や家庭でも必要に応じていつでも聴いて確認できるようにした。次年度も活用の仕方を工夫する。 継続して振り返りの活動を行ったことにより、児童が自らの成長を実感したり次の学習に生かそうとしたりする様子が昨年度よりも見られるようになった。
	図工	<p>学 材料に積極的に関わるとともにすすんで活動し、自分なりの表現を試して発想を広げようとする意欲的な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現への肯定感がやや低く、自分の思いやイメージに合わせて、画材や素材を選び効果的に表現する力がやや弱いため、自己肯定感や表現力を伸ばしていく指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の表現のよさに気づき自信をもてるように言語化して伝える活動をしたり、タブレット端末を活用して互いの作品や表現のよさを見合ったりする活動をする。 画材を表現に合わせて豊富に用意し、自分で選択させる活動場面や題材を多く準備し、思考力、判断力、表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの場面でタブレット端末を活用して作品の鑑賞を取り入れた。自分の作品について自信をもって伝え合えるようにした。 画材を表現に合わせて用意するとともに、既習の道具についても写真で振り返ることで、表現の幅を広げることができた。 発想を広げるために、思いをもつ段階でよりイメージが広がるようタブレット端末を活用して参考資料を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの作品をタブレット端末で鑑賞したり、展覧会では作品の感想を他学年と交流したりして鑑賞の幅を広げることができた。次年度も他学年との鑑賞やタブレットの活用の工夫をする。 既習の学習からだけでなく道具の様々な紹介をすることで表現の幅をさらに広げていく。 思いをもつ段階でよりイメージが広がるようタブレット端末を活用して参考資料を提示することが、特に絵に描く題材で有効であった。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。